

孤独死を見守るサービス

目 概要

少子高齢化は今後、どんどん加速していく。
この流れは止められない止まらない。
そんな状況の中で日本の社会はどんどん核家族化そして、非婚化していく。
人間最後は一人である。

孤独死を見守るサービスをBtoCではなく、GtoC（政府→個人）やGtoBtoC（政府→一般企業→個人）で政府や行政を巻き込んで孤独死を見守るサービスを作っていく必要がある。

1. 無縁仏の課題

→たとえば、親族が不在の方に対して、亡くなったことが即座にわかるサービスなので適宜の行政手続や埋葬手続などがスムーズに行える。

2. 亡くなったという情報の伝達網・伝達速度

→センシングを用いる。これは既存技術で可能。

3. 既存のサービス

→たとえばBtoCでは「ALSOKみまもりサポート」とか「ネコリコホームプラス」など。

4. 変えたいこと

→ BtoCだと収益性の問題が立ちはだかる。

Gを巻き込みたい。

・有益性

→たぶん結婚できないので、最後は行政になんとかしてほしい。（将来の自分の不安解消）

→高齢者に限らないサービス（見守りが必要な人は多い＝需要高し?）。

・独創性

→個別の業者の同様なサービスはあるが、社会インフラとして整備されていない。

今後（30年後＝わたしが70歳）の日本の状態を考えるとぜひ整備しておいていただきたい。

・実現性

→（既存サービスの仕組みがあるため）実現性は高い。

ただし、行政を巻き込むのでアプローチの仕方などは検討の必要がある。

また、ビジネスとして考えた場合、業者が儲けるためのマネタイズの仕組みが必要。

→IoTサービスの活用は今後ますます加速していくと思われるので、技術的な問題はなさそう。

・継続性

→このサービスが不要になるためには「人間が死を克服する（ちょっと1000年単位で無さそう）」や「日本から老人がいなくなる」あるいは「人類消滅」などが必要。

行政が存在し、マネタイズできるかぎり継続できそう。



解決したい課題：アイデアで解決したい課題は何で、それをどうしたいですか？

解決したい課題：

孤独死したあとの処理をどうしようかな？（独身者：40代男性）

それをどうしたいですか？

孤独死を見守るサービスをBtoCではなく、GtoC（政府→個人）やGtoBtoC（政府→一般企業→個人）

で政府や行政を巻き込んで孤独死を見守るサービスを作っていく必要がある。


 **解決方法**：課題をどうやって解決しますか。骨子を記載ください。

既存サービス+行政の体制構築。


最終的に賃貸を借りる際の賃貸側の提示条件として、

- ・オートロック
- ・火災保険
- ・孤独死見守りサービス (NEW)

のような「付帯サービス」の位置づけにもっていきたい。

 **類似 (独創性)**：現在、このアイデアと類似する仕組みがあれば記載ください (検索してみてください)

「ALSOKみまもりサポート」、「ネコリコホームプラス」など。

 **有意性**：既に存在する類似の仕組みと比べて、どこが優れていますか (存在している場合のみ記載ください)

行政を巻き込むという視点。

行政を巻き込むためバジェットが変わる。一企業のみでのサービスインとは異なり、事業継続性が高い。

 **実現方法**：どのように実現するか、できるだけ具体的に記載ください (ファイル添付も可)


最終的に賃貸を借りる際の賃貸側の提示条件として、

- ・オートロック
- ・火災保険
- ・孤独死見守りサービス (NEW)

のような「付帯サービス」の位置づけにもっていきたい。

※持ち家の場合も法整備で対応。

 **課題・障壁**：実現する上で課題となることは何ですか、それをどうやって克服しますか

 **期間・コスト**：実現に必要な費用と期間はどれくらいでしょうか。初期リリースとそれ以降など記載ください

あくまでも一人あたりのコストとして計算すると、

(初期)

期間：1週間以内 (たとえばドアにセンサー設置など)

コスト：～2万円程度

(継続)

期間：4年に一度機器保守点検と交換

コスト：～2万円程度

※システム化とかそういった話の予算が別途必要なはず。

※マイナンバー絡めましょう！予算とれそう！

 **参考情報**：実現しなれども、似たような仕組みがすでに存在していても、理想像をお書きください。

 木米 塚・美 現 した こと、人々 か の よう に 慰 患 を 受 け し 辛 せ に な れ る が、理 怨 塚 を お 書 さ く に たい

今後日本社会においては「終活」はとても大事になると思います。

終わりを幸せに迎える権利は誰にでもあります。

その当たり前の幸せを手に入れたい。

また、現実的な問題として、孤独死やその後の処理サービスなどは今後需要が高くなると思われます。

こういった部分を黒く塗りつぶすのではなく、光を当てていくサービスを作っていければと思います。